

いよいよ23年産の生産が本格的にスタートします。ハウスナシでは摘果作業の時期であり、作業が遅れないように計画的な作業をお願いします。

今年はここ2年ほどの早い開花とはならなかったことや休眠期の降水量が確保できたことなどで開花のバラツキは少ないと思われ、出来るだけ一回の授粉で済ませよう心がけてください。

1, 摘蕾の実施

花芽は平年より充実しており花蕾数も多い状況です。このような年は結実状態も良いのですが、着果過多となり小玉果生産となりがちです。開花前の摘蕾を徹底し結実させる花の充実を図りましょう。

- ①主枝、亜主枝、側枝の先端の花芽を除去する。
- ②予備枝に着生している花芽はすべて摘蕾する。
- ③短果枝は1花芽とし、余分な花芽はハサミでせん除する。
- ④えき花芽で着果させない下芽の摘蕾や葉が着いていない花の除去を行う。
- ⑤突出した花芽（子花）を除去する。

当然、毎年行われている作業であると思いますが、収穫するまでの作業で最も重要な作業となりますので徹底して行ってください。

2, 輸入花粉の取り扱い

花粉採取の手間を省くため中国梨「雪花梨」花粉の利用が増加しています。この花粉は乾燥剤とともに-30℃で冷凍貯蔵されているため、そのままでは発芽率がかなり低い状態です。花粉の発芽率を高めるためには、温度と湿度を最適な条件（図1）にしておく必要があります。手順は以下のとおりです（図2）。

- ①授粉を行う前日に冷凍庫から花粉を取り出す。
- ②授粉に必要な量の花粉を計って新聞紙等で包む。
- ③クーラーBOX、保冷剤、タオルを用意する。タオルは水で濡らしてから固く絞り、保冷剤に巻きつけておく。（理想は温度5℃、湿度80%）
- ④タオルを巻きつけた保冷剤と、新聞紙で包んだ花粉をクーラーボックスの中に入れる。このとき、花粉がタオルに触れて濡れないようにビニール等を敷いておく。

圃場内を移動する時もこの状態で運ぶと発芽率が維持できます。

3, 丁寧な授粉の実施

授粉作業は結実のために重要な作業であり、みなさん徹底して行っておられますが1果そう2花授粉しても結果的に5分の1程度に摘果をする必要があります。実際、1果そう3~5果着果しており、どれだけ摘果作業に時間が必要かがわかります。授粉は丁寧に、しかし無駄な授粉を行わないようにしてください。

4, 異常気象下での授粉作業

ここ数年、授粉時期の低温や降雨などにより、結実不良が目立っています。このような中、いかに結実させるか出来る限りの対策を考えておきましょう。

①利用する花粉は必ず発芽試験を行い、発芽率によって花粉量を決定してください。(表1)

②低温(15℃以下)が予想される日は花も受精能力が低下するため授粉作業を控えてください。

低温時の授粉は結実が悪いばかりか着果しても肥大が悪くなります。翌日、同じ花に授粉しても一端受精した花は授粉効果は無くなりますので、人の都合ではなく、ナシ樹に合わせた対応が必要となります。

③晴天時は午後から強風となる日が多いため出来るだけ午前中に集中して授粉してください。

④授粉する前日または授粉する朝に灌水を実施し、園内湿度を高めてください。

⑤黄砂が降った後授粉する場合はSSで散水し、黄砂を除去してから授粉してください。

⑥花数多く授粉するのでは無く、1花にたっぷり丁寧な授粉をすることに心がけてください。

5, 摘果作業

摘蕾同様に貯蔵養分の浪費を防いで早期展葉させ、初期肥大を確保するために重要な作業です。また、葉のない果そうは生育後期に果実の肥大が期待できないため摘果を行います。摘果が遅れると翌年盲芽になりやすくなります。早期に摘果を行うことで花芽の着生率を高めることができますので、翌年の生産量を確保することにつながります。授粉から2週間後には果実肥大・果形なども判断できるため、遅れないように作業に取り掛かってください。開花後30日後までには適正着果量に仕上げます。一般的に肥大と果形が良く、斜め上向きで果軸の長いものを選びますが、「あきづき」は果軸が短いので、上向きだと収穫直前に軸折れするおそれがあるので横向きの果実を残すようにしてください。

6, 早期展葉の重要性

摘蕾、摘果作業の徹底は早期展葉に直接結びつきます。早期展葉させることがどうして重要なのか、永年作物である以上樹の力は葉数で決まります。このことは理解していても実際摘蕾不足、摘果の遅れは当たり前のように繰り返されています。今一度、しっかりと考えてみましょう。

①早期展葉した場合

露地栽培のナシ果実は4月に細胞分裂とともに肥大が進みます。また、5月に入ると初期肥大のピークとなり着果数が多くても順調に肥大します。4～5月は貯蔵養分で生育するため摘蕾、摘果が早期におこなえた樹は葉への分配が多くなり、果そう葉は満開後40日頃までには成葉となります。また、新梢の伸長も旺盛となり満開後70日頃には伸長が停止し、翌年の生産に向けての花芽分化が始まります。伸長の停止後は果実肥大が急速に進み糖度も上昇し、大玉果で糖度の高い果実が生産できます。

②展葉、伸長が遅れた場合

摘蕾、摘果が遅れ芽かぎなど行わなかった場合、貯蔵養分は果実肥大に使われ急激に肥

大し、大玉果生産が期待できそうですが、展葉が遅れ新梢の伸長も鈍化するため6月以降果実肥大は鈍化し、結果として小玉果生産となります。さらに、7月に大雨が降れば裂果の多発にもつながります。また、新梢の伸長が遅くまで続くため花芽分化が遅れ翌年の生産にも悪影響を及ぼします。

このように開花期前後の管理は当年の果実生産ばかりでなく、次年度の果実生産にも影響することや梅雨期の大雨、夏季の異常高温などナシの生育にとってマイナスの気象条件となっており、これまで以上に徹底した管理が必要です。

7、ハウス栽培での結実管理

ハウス栽培では摘果作業も終了し、新梢伸長も旺盛な時期となります。昨年、この時期夜温が低く、果実の肥大だけでなく新梢の伸長も鈍化したことにより、小玉果が多く、熟期も予想以上に遅くなりました。重油高騰の中ですが4月いっぱいには昼温は20～30℃、夜温は12～15℃に保つようによしてください。

表 1

花粉の発芽率と希釈倍率	
発芽率	希釈倍率
80%以上	1.5倍
70%程度	1.0倍
60%程度	7～8倍
50%程度	5倍
50%以下	増量剤として使用

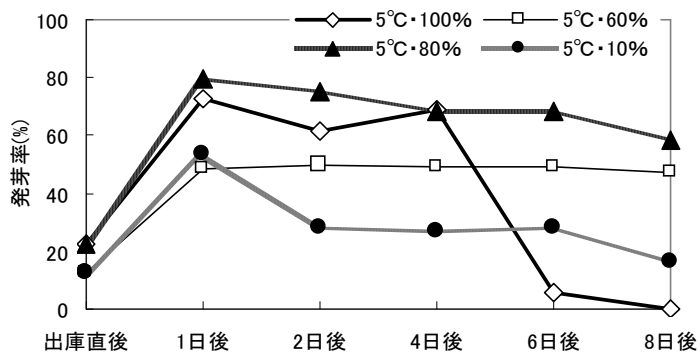


図1 気温5°Cのもとで湿度の違いが「雪花梨」花粉の発芽率に及ぼす影響



授粉前日に冷凍庫より取り出す



必要量新聞などに小分けし残りは冷凍庫に戻す



濡れタオルで保冷剤を包む



クーラーボックスに濡れタオルで包んだ保冷剤を入れ、花粉が濡れないようにビニールなどで仕切った上に花粉を置きフタをする

図2 雪花梨花粉の取り扱い方法